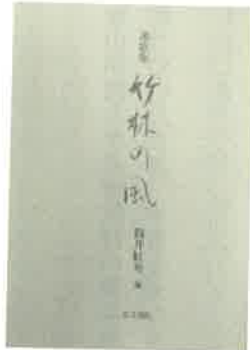


〔図書紹介〕「須佐神社・連歌の会編『平成の連歌』（須佐神社・連歌集1）」「古代中世国文学』第十一号（広島平安文学研究会・一九九八年）

③『連歌集 竹林の風』筒井紅舟（編）

編者の筒井紅舟氏は、平成十年に連歌集『市女笠』（角川書店）を出版され、平成二十五年に、第二連歌集『竹林の風』を刊行された。

筒井紅舟氏は、京都連歌会をはじめ、多くの連歌会で宗匠を務められており、平成十六年に行橋で行われた国民文化祭連歌大会においても、宗匠の一人として大会の成功に大きく貢献された。また、歌人として、さらに裏千家茶道正教授としても活躍されており、紅舟美術館紅林文庫館長も務められている。



『竹林の風』には、七賢連歌の作品八巻、故濱千代清氏と筒井紅舟氏との両吟他十一巻に「三つ物」六作品が収録されている。「あとがき」によれば、七賢とは、平成十四年に開催されたふくおか文芸祭連歌大会で宗匠を務められた有川宜博氏、島津忠夫氏、高辻安親氏、筒井紅舟氏、鶴崎裕雄氏、藤江正謹氏、光田和伸氏の七人。平成十六年の第一回張行直前に高辻氏が不参加となり、筒井柏全氏、堀江俣世氏加わるようになったそうである。

この七賢連歌をはじめとし、収録されている連歌作品は、現代の各連歌会で宗匠を務められている方々の作品であり、現代連歌の模範とすべき作品と行うことができる。連歌を学ぼうとする人たちの手本となる貴重な作品集と言える。

また、行橋市須佐神社の今井祇園連歌の会の宗匠を務めてこられた故高辻安親氏と有川宜博氏のお二人と筒井紅舟氏の三人が詠まれた「小野三吟」も収録されている。行橋連歌の再興に尽力された方々の作品に接することができることは、地元で連歌に携わる者にとっても実にありがたいことだと思う。

本書を通して、多くの方に格調高い連歌のすばらしさを感じていただき、連歌を巻く方には、目指すべき作品として味わうことを、お勧めしたい。

（A5判・一四四頁・平成二十五年二月二十一日・右文書院刊・定価三五〇〇円＋税）

④『あなたが詠む連歌』東山茜（著）

行橋市では、連歌大会が毎年開催されており、十年以上になる。中学生高校生の座も設けられ、毎年、多くの若者が連歌を楽しんでいる。その連歌大会の実作の様子を詳しく綴った本が刊行された。筆者の東山茜氏は、フリーの編集者として、書籍の編集及び取材・執筆活動を行っている。本書は、連歌とは何かということについての説明も詳細で、連歌を実作する上で大変役立つ。多くの方にこの本を手にもらい、連歌会に参加していただきたいと思う。

内容は以下の通りである。

1部 連歌を理解する

1章 連歌の構成

1 連歌は独立した句の集まり

2 句と句をつなぐ